

○企業別タクソノミ作成ガイドライン（その2） 新旧対照表

新	旧
<p>1-3 参考となる文書</p> <p>本書におけるIFRSタクソノミの記述は、「IFRS Taxonomy Guide」を参考としています。 IFRSタクソノミと「IFRS Taxonomy Guide」は、IFRS財団(IFRS Foundation)のWebサイト(http://www.ifrs.org/XBRL/IFRS-Taxonomy/Pages/IFRS-Taxonomy.aspx)上で入手が可能です。</p> <p>2-1 タクソノミの全体像</p> <p>(略)</p> <p>IFRSタクソノミではInterim Releaseとして、IFRSの改正を取り込んだ版がIFRS財団のWebサイト(http://www.ifrs.org/XBRL/IFRS-Taxonomy/Pages/Interim-releases.aspx)上で提供されています。提出会社は必要に応じてこのInterim Releaseを使用することが可能です。Interim Releaseに関する情報は、当該Webサイトを参照してください。</p> <p>2-2 EDINETタクソノミ利用時の場合との主な相違点</p> <p>(略)</p> <p>■連結財務諸表等と個別財務諸表等の区別について</p> <p>IFRSタクソノミでは、連結財務諸表等と個別財務諸表等の区別を行う場合、報告書インスタンスにおいて設定するコンテキストで区別するのではなくXBRL Dimensionsを使用します。ただし、IFRS基準で連結財務諸表のみを作成する場合はXBRL Dimensionsの使用を省略できます。XBRL Dimensionsに関する詳細は「6-2 XBRL Dimensions関連の要素について」を参照してください。</p> <p>(略)</p> <p>■正値負値の扱いについて</p> <p>財務諸表において<u>正の金額又は負の金額を表示する場合、EDINETタクソノミでは報告書インスタンスの値にそれぞれ正値又は負値を設定することになります。これに対して、IFRSタクソノミでは報告書インスタンスの値に要素の意味に応じて正値又は負値を設定し、符号反転ラベルを設定することで表示上の値がそれぞれ負の金額又は正の金額であることを表すことがあります。符号反転ラベルに関する詳細は「8-2-8 符号反転ラベルの設定」を参照してください。</u></p> <p>(略)</p> <p>■包括利益計算書について</p> <p>IFRSタクソノミでは、包括利益計算書の2計算書方式の場合の拡張リンクロールが用意されています。このため、1計算書方式を利用する場合は、「<u>包括利益計算書：純損益の部</u>」(拡張リンクロール「[310000] Statement of comprehensive income, profit or loss, by function of expense」又は拡張リンクロール「[320000] Statement of comprehensive income, profit or loss, by nature of expense」)の表示リンクと計算リンクに対して要素を追加設定する必要があります。表示リンク、計算リンクの設定については「10. 表示リンクの設定」及び「11. 計算リンクの設定」を参照してください。</p>	<p>1-3 参考となる文書</p> <p>本書におけるIFRSタクソノミの記述は、「IFRS Taxonomy Guide」を参考としています。 IFRSタクソノミと「IFRS Taxonomy Guide」は、IFRS財団(IFRS Foundation)のWebサイト(http://www.ifrs.org/Home.htm)上で入手が可能です。</p> <p>2-1 タクソノミの全体像</p> <p>(略)</p> <p>IFRSタクソノミではInterim Releaseとして、IFRSの改正を取り込んだ版がIFRS財団のWebサイト(http://www.ifrs.org/Home.htm)上で提供されています。提出会社は必要に応じてこのIFRSタクソノミを使用することが可能です。<u>通常、Interim Releaseは新たな基準に対応するものですが、2011年8月31日付のInterim Release「Common practice concepts」は、勘定科目の利用実績に基づく追加勘定科目のタクソノミです。「Common practice concepts」に関する情報は、http://www.ifrs.org/XBRL/IFRS+Taxonomy/Interim+releases.htmを参照してください。</u></p> <p>2-2 EDINETタクソノミ利用時の場合との主な相違点</p> <p>(略)</p> <p>■連結財務諸表等と個別財務諸表等の区別について</p> <p>IFRSタクソノミでは、連結財務諸表等と個別財務諸表等の区別を行う場合、報告書インスタンスにおいて設定するコンテキストで区別するのではなくXBRL Dimensionsを使用します。ただし、連結財務諸表のみを作成する場合はXBRL Dimensionsの使用を省略できます。XBRL Dimensionsに関する詳細は「6-2 XBRL Dimensions関連の要素について」を参照してください。</p> <p>(略)</p> <p>■正値負値の扱いについて</p> <p>財務諸表において負の金額を表示する場合、EDINETタクソノミでは報告書インスタンスの値に負値を設定することになりますが、<u>IFRSタクソノミでは報告書インスタンスの値に原則として正値を設定し、符号反転のラベルを設定することで負値を表すことになります。符号反転のラベルに関する詳細は「8-2 名称リンクの設定」を参照してください。</u></p> <p>(略)</p> <p>■包括利益計算書について</p> <p>IFRSタクソノミでは、包括利益計算書の2計算書方式の場合の拡張リンクロールが用意されています。このため、1計算書方式を利用する場合は、<u>損益計算書の表示リンクと計算リンクに対して要素を追加設定する必要があります。表示リンク、計算リンクの設定については「10. 表示リンクの設定」及び「11. 計算リンクの設定」を参照してください。</u></p>

2-3 IFRSタクソノミ2011との主な相違点

IFRSタクソノミ2012とIFRSタクソノミ2011との主な相違点は、次のとおりです。

■IFRSの更新に伴う更新

2011年中に公表された新基準及び基準改訂に対応した更新が行われています。

■Common-practice conceptsの拡充

事例分析に基づきCommon-practice concepts（実務慣行に基づく要素）が拡充されました。財務諸表本表に関して約340個、財務諸表注記事項に関して約280個の要素が追加されました。

■株式オプションの開示に関するタクソノミ構造の改善

「ストック・オプションの数と加重平均行使価格の開示 [表]」（Disclosure of number and weighted average exercise prices of share options [table]）が非ディメンション構造に変更されました。

5-2 IFRSタクソノミのインポート・参照

（略）

例1：IFRSタクソノミのコアスキーマのインポート

- ・企業別タクソノミスキーマファイルがIFRSタクソノミのコアスキーマをインポートする場合
schemaLocation="http://xbrl.ifrs.org/taxonomy/{公開日}/ifrs-cor_{公開日}.xsd"

6-2 XBRL Dimensions関連の要素について

XBRL Dimensionsを使用する場合、以下に示すような要素が必要です。

例えば、A地域及びB地域について、地域別及び合計の売上と原価を表す場合、定義リンク（及び表示リンク）に出現する要素は図6-1のようになります。

IFRSタクソノミでは、特定の軸に対するDefault設定の重複を防ぐため、Default設定が拡張リンクロール「[990000] Axis - Defaults」に集約されています。特定の軸のDefault設定を知るには、当該拡張リンクロールを参照する必要があります。

各拡張リンクロールの特定の軸においてDefaultを利用する場合は、拡張リンクロール「[990000] Axis - Defaults」上のDefault要素を各拡張リンクロールのDomain又はMemberとして設定します。

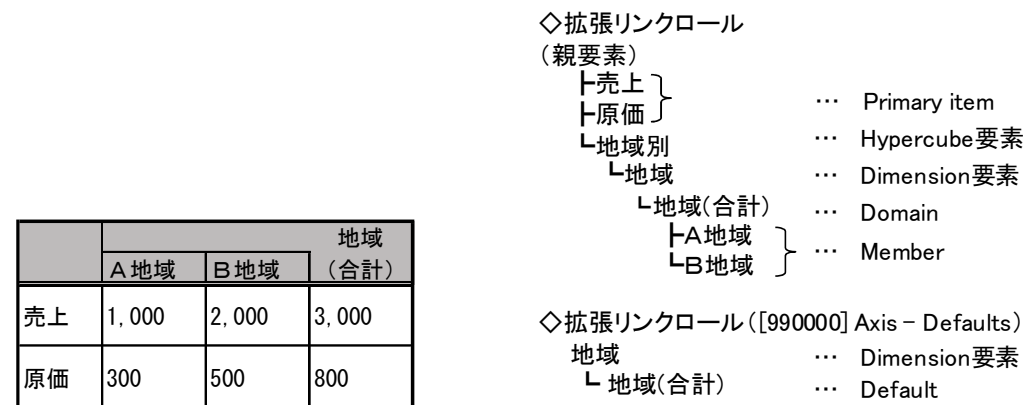


図6-1 XBRL Dimensionsの使用例

(追加)

5-2 IFRSタクソノミのインポート・参照

（略）

例1：IFRSタクソノミのコアスキーマのインポート

- ・企業別タクソノミスキーマファイルがIFRSタクソノミのコアスキーマをインポートする場合
schemaLocation="ifrs-cor_{公開日}.xsd"

6-2 XBRL Dimensions関連の要素について

XBRL Dimensionsを使用する場合、以下に示すような要素が必要です。

例えば、A地域及びB地域について、地域別及び合計の売上と原価を表す場合、定義リンク（及び表示リンク）に出現する要素は図6-1のようになります。

※IFRSタクソノミ2011では、IFRSタクソノミ2010と異なり、XBRL DimensionsのDefault要素が拡張リンクロール「[990000] Axis - Defaults」に集約されていることに留意してください。

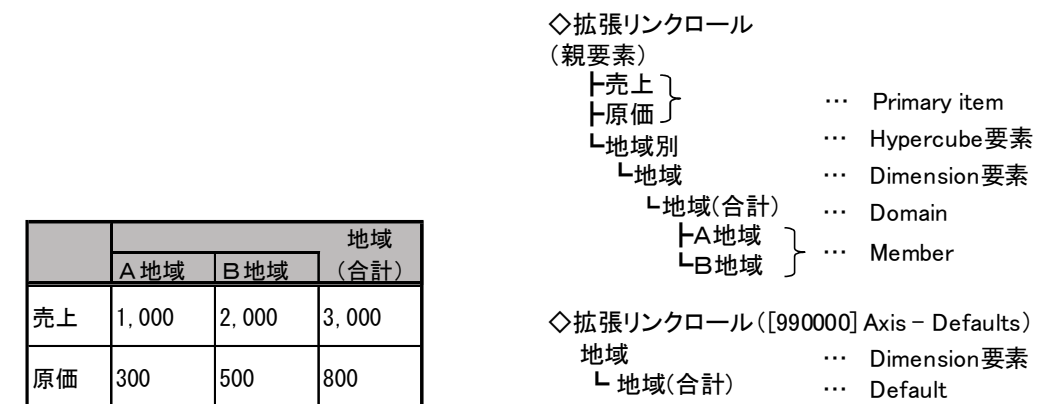


図6-1 XBRL Dimensionsの使用例

各要素の種類ごとの概略を表 6 1に示します。

表 6-1-1 軸の XBRL Dimensions で用いる要素の概略

No	要素の種類	概略	各要素に関する設定時に特に注意を要する箇所 (※)
(略)			
5	Default	Context中にMemberが設定されていない場合、Default値が設定されているのと同値とみなされます。原則として軸の構成要素の合計を表します。図6-1における「地域 (合計)」が該当しますが、Default専用の拡張リンクロールに別途定義されているため、当該拡張リンクロールの設定を確認することでDefaultの要素を判別することが可能です。	・定義リンク
6	Member	軸の構成要素です。 図6-1 XBRL Dimensionsの使用例における「A地域」及び「B地域」の各要素が該当します。	・定義リンク

7-3 データ型 (type)

企業別タクソミにおいて追加する要素には、当該要素が持つ値に応じたデータ型を設定します。金額を値として持つ場合はデータ型「monetaryItemType」、株式数の場合は「sharesItemType」、日付の場合は「dateItemType」、それ以外の数値の場合は「decimalItemType」をそれぞれ設定します。文字列を値として持つ要素、見出しとして値を持たない要素、Hypercube要素及びDimension要素には、「stringItemType」を設定します。テキストブロックとして値を持つ要素には「textBlockItemType」を設定します。Domain、Memberには「domainItemType」を設定します。

また、必要に応じてXBRL Specification2.1に定義されているデータ型や、Data Type Registry (以下「DTR」という。)に登録されているデータ型を利用することが可能です。DTRは、XBRL Internationalによって公開されています。詳細は、XBRL InternationalのWebサイト (<http://www.xbrl.org/dtr/>) を参照してください。

7-5 貸借区分 (balance属性)

(略)

財政状態計算書及び包括利益計算書においては、借方項目に「debit」、貸方項目に「credit」をそれぞれ設定します。ただし、控除項目では逆の設定となり、自己株式に「debit」を設定します。

各要素の種類ごとの概略を表 6 1に示します。

表 6-1-1 軸の XBRL Dimensions で用いる要素の概略

No	要素の種類	概略	各要素に関する設定時に特に注意を要する箇所 (※)
(略)			
5	Default	Context中にMemberが設定されていない場合、Default値が設定されているのと同値とみなされます。原則として軸の構成要素の合計を表します。図6-1における「地域 (合計)」が該当しますが、Default専用の拡張リンクロールに別途定義されています。	・定義リンク
6	Member	軸の構成要素です。 図6-1 XBRL Dimensionsの使用例における「A地域」及び「B地域」の各要素が該当します。	・定義リンク

7-3 データ型 (type)

企業別タクソミにおいて追加する要素には、当該要素が持つ値に応じたデータ型を設定します。金額を値として持つ場合はデータ型「monetaryItemType」、株式数の場合は「sharesItemType」、日付の場合は「dateItemType」、それ以外の数値の場合は「decimalItemType」をそれぞれ設定します。文字列を値として持つ要素、見出しとして値を持たない要素、Hypercube要素及びDimension要素には、「stringItemType」を設定します。Domain、Memberには「domainItemType」を設定します。

また、必要に応じてXBRL Specification2.1に定義されているデータ型や、Data Type Registry (以下「DTR」という。)に登録されているデータ型を利用することが可能です。DTRは、XBRL Internationalによって公開されています。詳細は、XBRL InternationalのWebサイト (<http://www.xbrl.org/dtr/>) を参照してください。

※IFRSタクソミ2011では、IFRSタクソミ2010と異なり、テキストブロックとして値を持つ要素のデータ型が「escapedItemType」から、「textBlockItemType」に変更されていることに留意してください。

7-5 貸借区分 (balance属性)

(略)

財政状態計算書、損益計算書及び包括利益計算書においては、借方項目に「debit」、貸方項目に「credit」をそれぞれ設定します。ただし、控除項目では逆の設定となり、自己株式に「debit」を設定します。

8-2-3 標準ラベルの設定

(略)

日本語標準ラベルを設定する場合、抽象要素には「[タイトル項目]」、Dimension要素には「[軸]」、Hypercube要素には「[表]」、text block要素には「[テキストブロック]」、Memberには「[メンバー]」、Primary Itemを束ねる要素には「[表示項目]」を標準ラベルの末尾にそれぞれ設定します。

英語標準ラベルを設定する場合、抽象要素には「[abstract]」、Dimension要素には「[axis]」、Hypercube要素には「[table]」、text block要素には「[text block]」、Memberには「[member]」、Primary Itemを束ねる要素には「[line items]」を標準ラベルの末尾にそれぞれ設定します。

8-2-8 符号反転ラベルの設定

計算リンクや貸借区分から、タクソノミ要素に設定すべき値が正値（又は負値）であるが、財務諸表の表示上は負値（又は正値）とする場合は、符号反転ラベル(negatedラベル)を設定し、表示とXBRLの値との符号の反転を表現します。タクソノミで符号反転ラベルを用意し、表示リンクのpreferredLabel属性に符号反転ラベルが設定されている項目は、表示とインスタンス値の正負を反転するようインスタンス値を設定します。

9-1 定義リンクについて

XBRL Dimensionsの要素を追加した場合又は表示順序等の変更をする場合、本章で記載する定義リンクの設定を行います。定義リンクでは、IFRSタクソノミで定義されている勘定科目と提出会社が追加した要素との関連付けを行います。なお、Dimension表で用いる要素以外を追加した場合には定義リンクの設定はありません。

8-2-3 標準ラベルの設定

(略)

日本語標準ラベルを設定する場合、抽象要素には「[タイトル項目]」、Dimension要素には「[軸]」、Hypercube要素には「[表]」、text block要素には「[テキストブロック]」を標準ラベルの末尾にそれぞれ設定します。

英語標準ラベルを設定する場合、抽象要素には「[abstract]」、Dimension要素には「[axis]」、Hypercube要素には「[table]」、text block要素には「[text block]」を標準ラベルの末尾にそれぞれ設定します。

(追加)

9-1 定義リンクについて

XBRL Dimensionsの要素を追加した場合又は表示順序等の変更をする場合、本章で記載する定義リンクの設定を行います。定義リンクでは、IFRSタクソノミで定義されている勘定科目と提出会社が追加した要素との関連付けを行います。

9-2-2 XBRL Dimensionsの設定

(略)

表 9-1 XBRL Dimensions の設定

No	親要素	子要素	アークロール	属性の設定
1	Primary itemの親要素	Primary item	domain-member ^{※1}	
2	Primary itemの親要素	Hypercube要素	all ^{※1}	closed属性：原則として「True」 contextElement属性：「scenario」
3	Hypercube要素	Dimension要素	hypercube-dimension ^{※1}	他の拡張リンクロールのDimension要素、Domain、Memberを共通的に使用する場合、当該Dimension要素を設定し、TargetRole属性に当該他の拡張リンクロールを指定する。
4	Dimension要素	Domain	dimension-domain ^{※1}	
5	Dimension要素	Default	dimension-default ^{※1}	
6	Domain	Member	domain-member ^{※1}	

※1：“http://xbrl.org/int/dim/arcrole/” に続くアークロールの名称のみを記載。

9-2-2 XBRL Dimensionsの設定

(略)

表 9-1 XBRL Dimensions の設定

No	親要素	子要素	アークロール	属性の設定
1	Primary itemの親要素	Primary item	domain-member ^{※1}	
2	Primary itemの親要素	Hypercube要素	all ^{※1}	closed属性：原則として「True」 contextElement属性：「scenario」
3	Hypercube要素	Dimension要素	hypercube-dimension ^{※1}	他の拡張リンクロールのDimension要素、Domain、Memberを共通的に使用する場合、当該Dimension要素を設定し、TargetRole属性に当該他の拡張リンクロールを指定する。
4	Dimension要素	Domain	dimension-domain ^{※1}	
(追加)				
5	Domain	Member	domain-member ^{※1}	

※1：“http://xbrl.org/int/dim/arcrole/” に続くアークロールの名称のみを記載。

※IFRSタクソノミ2011では、IFRSタクソノミ2010と異なり、XBRL DimensionsのDefault要素が拡張リンクロール「[990000] Axis - Defaults」に集約されていることに留意してください。